

24. 2023年度 中学入試問題 出題のねらい・講評と難易度

● 2023年度 中学入試 第1回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	86%	93%	<p>論説文の中に中国の説話や日本の短歌や俳句など様々なジャンルの文章が登場し、それらをあわせ読むことによって論旨を追う必要がある本文である。様々なジャンルの文章を普段から読んでいのかどうかを問うた。またテーマが「時間」という抽象度の高いものであるため、受験生にとっては読み取りづらいつられる。</p> <p>漢字の問題は誰でも知っている字であって、語彙が問われるように出題している。</p>	<p>問3・問6・問7は文章の構造を問う設問、問9は本文の主旨を問う設問であった。</p> <p>問2はここ数年頻出の脱文(段落)挿入の問題。本校志望の受験生には慣れておいてほしい。合不合格の差が開いた問7や問9は本文の論理、主旨など本文自体が読めたかどうかを問う問題であった。</p> <p>記述問題はレベルを高く設定しておらず、選択問題や書き抜き問題であれば誰でも答えられそうな内容を質問している。諦めずポイントを見つけ、丁寧に書いてほしい。</p>
	b	81%	86%		
	c	71%	80%		
	d	10%	17%		
	問2	40%	51%		
	問3	64%	68%		
	問4	11%	14%		
	問5 (1)	35%	44%		
	(2)	6%	7%		
	問6	35%	41%		
	問7	23%	33%		
問8	29%	26%			
問9	39%	55%			
2	問1 A	54%	70%	<p>登場人物のセリフ・しぐさなどをもとに心情を読み解く題材を用意した。文章が少々長めであったが、学校や自宅での出来事を描いた内容なので、読みづらさは感じなかったと思う。読みやすいからといって、雑に読んでしまうと思わぬ読み間違いを起こしてしまう。正確に読み取る必要があるものを出题した。</p>	<p>語句の意味を問う問題の正答率が低かった。普段の学習では、辞書を活用し、自分の語彙力を鍛えてほしい。</p> <p>問9・問10は抜き出しの問題になっている。問題文を丁寧に読み、何が求められているのかを把握することが重要である。普段の学習でも問題文を丁寧に読む練習を積み重ねてほしい。</p>
	B	44%	51%		
	問2	81%	81%		
	問3	85%	86%		
	問4	54%	65%		
	問5	71%	78%		
	問6	75%	77%		
	問7	80%	86%		
	問8	69%	84%		
	問9	64%	77%		
問10	63%	69%			
3	問1	64%	62%	<p>詩の出題は本校の特色の一つである。今回の詩は比喩的な表現が多いので、問いを考えていくことで、詩の意味がわかるような出題とした。</p> <p>基本的な問いが中心である。</p>	<p>全体的に正答率が高くなったが、過去問の学習から詩についての基本的な知識や読み方をつかんでいることがうかがえる。問1では合格者の得点率が全受験者を下回っているが、選択式の宿命で偶然正解したケースが多いものと思われる。</p>
	問2	67%	70%		
	問3	81%	88%		
	問4	82%	86%		
	問5	59%	69%		
4	①	94%	98%	<p>熟語の構成を考えさせる問題である。語の成り立ちを理解することで、その語の意味が明らかになる。漢字に対する苦手意識を解消するためにも欠くことのできない知識である。</p>	<p>それぞれのグループは、①似た意味の語を並べた熟語。②動詞＋目的語。③修飾＋被修飾。④否定語＋否定される語。⑤接尾語を含む熟語である。⑤の3は主語＋述語。</p>
	②	95%	98%		
	③	81%	91%		
	④	91%	95%		
	⑤	52%	62%		

● 2023年度 中学入試 第1回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	86%	91%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確認する小問集合。四則演算、単位換算、特殊算、速さ、数の性質、図形(平面・立体)の計量を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	問6と問8以外は基本的な力を見るもので解きやすい問題が多かったせい、全体的に高い得点率であった。問6の数の性質の問題は、場合分けによる数え上げの間違ひのため、また問8の回転体の体積の問題は計算ミスのため、ともに得点率が他の問題より低かった。
	問2	77%	90%		
	問3	90%	96%		
	問4	82%	93%		
	問5	90%	93%		
	問6	21%	35%		
	問7	90%	98%		
	問8	33%	52%		
2	問1	69%	88%	本校では特徴的な平面図形と比を絡めた標準的な問題である。問1は補助線を引き、相似な三角形から線分比をそろえて比を求める基本問題。問2は問1の結果を利用し、線分比から三角形の面積比を求めて、そこから四角形の面積比を導く問題である。	問1の得点率は高かった。問2は問1を利用し、いくつかの図形の面積比を丁寧に調べていく問題であり、問1と連動しているため予想より低い得点率となった。合格者との得点率に関きがあり、合格のためには落とせない問題であった。
	問2	36%	63%		
3	問1	69%	87%	調査からの割合の問題。問題文を正確に把握し、問われているものが全体の何割かを適切に読み取れるかを問う問題である。調査内容の問題文が複雑であるために、正確に人数比をそろえて表にまとめられるかがポイントである。	問題文から、地域AとBそれぞれに対して、「はい」と「いいえ」の人数の全体に対しての割合を表にまとめることができるかどうかで正解・不正解が分かれた。問2は問1の結果から容易に求められる。問題文を忠実に考えて整理し、正しく表を作ることが大事であった。
	問2	38%	65%		
4	問1	69%	86%	数の規則性をテーマにした基石を並べる問題で、基礎的な問題と難易度の高い問題が交じっている。規則性を導き、正しく計算できるかがポイントとなる問題である。	問1と問2は、数の規則から数の和を求める基本問題であり、規則性を導き、正しく計算し高い得点率であった。問3は問題文から規則を見出すことが難しく、低い得点率となった。問1と問2を確実に得点できるかが合否のカギになった。
	問2	74%	85%		
	問3	4%	9%		
5	問1	47%	59%	立方体の切り口の図を考える問題と、切り口以外の面の面積や、立方体を2つに分けたときの2つの立体の体積の比を求める問題。正しい切り口を理解し、相似比などを利用して解く思考力の高い問題である。	問1は切り口の問題としては標準的な問題であったが、正しい切り口を理解できていない受験生が多かった。問2と問3は、正しい切り口が理解していないと、解けない問題であったため、残り時間で正確に解ける受験生は少なく、得点率は低かった。
	問2	7%	14%		
	問3	1%	4%		

● 2023年度 中学入試 第1回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 1	78%	81%	資源価格の高騰により、クリーンエネルギーへの注目が高まっている。時事的テーマに対する受験生の関心度をはかることをねらいとした。	日ごろよりニュース報道に関心を持って接しているかどうかをはかる出題(問1・問5(1))の正答率が低かった。学習内容の暗記ではなく、理解を掘り下げる学習を心がけてほしい。
	2	20%	31%		
	3	16%	11%		
	4	2%	5%		
	問2	54%	46%		
	問3	54%	59%		
	問4	16%	19%		
	問5 (1)	14%	16%		
	(2)	98%	98%		
	問6	69%	88%		
	問7	45%	53%		
問8	30%	36%			
2	問1 (1)	79%	86%	歴史分野をある程度の時代ごとに区切って、基本事項とその時代の特長などを正誤文や書き取りで出題した。書き問題はある程度、過去問を解いていれば似たような問題にあたることも想定している。	問1(1)は手法は変えているものの、世紀と年代の理解をしっかりしているかを確認している。問6は予想以上に低い得点率となった。1の選択肢が原因と考えられる。逆に問10の受験生が苦手とする戦前の整序問題は予想以上に高い得点率となった。得点率60%以上の設問は確実に正解しておきたい。
	(2)	48%	69%		
	問2	58%	72%		
	問3	44%	51%		
	問4	90%	95%		
	問5	87%	95%		
	問6	9%	15%		
	問7 (1)	91%	100%		
	(2)	17%	21%		
	問8 (1)	66%	80%		
	(2)	47%	62%		
問9	27%	37%			
問10	74%	80%			
3	問1	46%	52%	時事問題を学習内容と結びつける習慣と社会事象に対する興味関心が解答に結びつくような出題を意図とした。単に知識・用語の暗記ではなく様々な要因を多角的に考察する素養を求めた。	得点率は6割となった。問6～8の用語問題では9割を超える正答率であった反面、日頃の興味関心を求められた問いでは低いものもあった。「なぜ」を意識した学習を大切にして欲しい。
	問2	40%	52%		
	問3	88%	91%		
	問4	10%	6%		
	問5	56%	68%		
	問6	95%	96%		
	問7	88%	96%		
	問8	90%	93%		
	問9	91%	99%		
	問10	87%	95%		
	問11	24%	17%		
	問12	53%	67%		
	問13	83%	90%		
	問14	42%	43%		

● 2023年度 中学入試 第1回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	63%	72%	植生の遷移についての理解を求める問題を出題した。知識問題だけでなく、考察問題や計算問題、文章の読み取り問題などを満遍なく出題した。	知識問題(問2、問5)はすべて答える問題で平均点が低くなった。想像する問題(問1、問3、問4)として出題した3問は情景や遷移の手順を想像しながら解く必要があるが、合格者と不合格者に大きく差が見られなかったように感じられる。読み解く問題(問6)に関して、合格者は初見の知識に対してしっかりと読解して解けていた。
	問2	73%	79%		
	問3	57%	62%		
	問4	63%	67%		
	問5	24%	40%		
	問6 ア	87%	93%		
	イ	78%	89%		
	ウ	63%	75%		
エ	67%	77%			
2	問1	58%	67%	日本は代表的な火山国である。火山活動によって地表がどのように変わるのか。山肌に現れている岩盤はどのような種類のものか。それはどのような種類の岩石だろうか。これらについて、基本的な知識が身についているか、与えられた情報から簡単な計算ができるかどうかを問う問題である。	単純な知識・計算問題に対しては、よく出来ている。問4・問5のように、授業などで、直接習った内容ではない問題に対しては、類推したり、選択肢の消去法で解くことを期待していたが、受験生には難しかったようだ。
	問2	73%	73%		
	問3	81%	90%		
	問4	23%	27%		
	問5 (1)	31%	38%		
	(2)	61%	74%		
3	問1	71%	65%	もののとけ方についての基本的な知識を問うとともに、実験操作に関して深く考察する姿勢を問うている。なじみのない内容であったとしても、リード文をよく読むことで、理解しながら解答してもらいたい。	中学入試で定番とされる問題については、正答率が高かった。しかし、実験したときに気づいたことなどからさまざまに考察をすることができないと解けないような問題については正答率が低かった。問題演習を積むことは重要であるが、それだけではなく、授業を通して理科的に考える力を養うことの重要性も感じてもらいたいものである。
	問2	98%	98%		
	問3	81%	91%		
	問4	68%	74%		
	問5	55%	68%		
	問6	52%	65%		
4	問1	73%	79%	浮きに働く浮力を考えて、ばねの伸びを求めることができるか。また、容器内の水の体積を求めることができるか。計算力も必要であるが、浮力と浮きの沈んでいる部分の体積の関係を考えれば簡単に求めることができる。	浮力も含め、単純なばねの伸び縮みの計算はよくできていたが、それを踏まえての容器内の水の体積の計算のできがよくなかった。浮力と浮きの水中部分の体積の関係をよく考え、想像力を働かせてしっかり解答したい。
	問2	74%	89%		
	問3	62%	83%		
	問4	38%	58%		
	問5	57%	78%		
	問6	26%	46%		
	問7	29%	44%		

● 2023年度 中学入試 第2回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	28%	37%	漢字の書き取りでは、漢字は単純だが語彙としては受験生にとって耳慣れないものを選んだ。読解問題については近年の受験生のレベルの向上に合わせ、文章の内容からグラフを作らせる問題や、レ点の法則＝習っていないものをその場で理解し応用する問題も出題した。	問1a・cや問5の正答率が低くなったのは、受験生の語彙の少なさを示しているだろう。択一問題の選択肢の差別化も結局は語彙に基づいて行うわけだから、しっかりと言葉の意味を身につけてもらいたい。ただし、覚えるだけの学習ではなく、それを使う・応用する学習をすることで、問9のような問題に対応できるようになってほしい。
	b	68%	77%		
	c	50%	59%		
	d	89%	96%		
	問2	93%	97%		
	問3	46%	54%		
	問4	80%	89%		
	問5	66%	75%		
	問6	89%	95%		
	問7	85%	91%		
問8	54%	64%			
問9	27%	38%			
2	問1 A	45%	46%	人知れぬ家族の悲しみを一人で背負った母と、その涙を見た「私」の心情を読み取る問題。劇的な展開がある小説ではないが、読む人の心を打つ。では、どこが心を打つのか。それを共有するためのことば、すなわち設問のことばがわかるかどうかが重要である。	本文も設問もやや難しい語句が使われているが、結果を見るとわかる人にはわかってもらえたようだ。問題の難易度は妥当だったと思う。問1語句の問題は、辞書的な意味から逸れると正解にはならない。ふだんから辞書を使う習慣を身につけてほしい。
	B	87%	92%		
	C	53%	52%		
	問2	54%	60%		
	問3	63%	73%		
	問4	47%	57%		
	問5	54%	63%		
	問6	55%	68%		
問7	61%	67%			
問8	66%	75%			
3	問1	51%	58%	現代を代表する詩人が新聞に書き下ろした詩。受験生にとって難度は高いと思うが、理解や共感できる部分は少なからずあるはずで、そこから選択肢をヒントに考えてほしかった。詩を読むうえで表現技法の理解は必須。まずはひと通りの技法をおさえたい。それができたら技法を手がかりに読むことに挑戦しよう。この詩の最後2行は対句なので「詩」と「数式」を比較している。この2つの共通点を考えることで詩が近づいてくる。	全体を通して問1の正答率が高くない。表現技法の理解は詩の読解の第一歩。今回の正解「対句」はおさえておきたい。問4と問5は詩全体をふまえて考える。人間の身体でとらえられるものには限界があり、それを超えるためには科学が必要。人間の身体から発する言葉はすぐに消えてしまうが、すぐれた詩は作者の生命を超えて生き残る。このように永遠や無限を目指すことを詩人は「心の貪欲」としている。
	問2	47%	58%		
	問3	67%	71%		
	問4	56%	62%		
	問5	35%	37%		
4	問1 ①	25%	34%	漢字の成り立ちや部首に関する問い。本校の入試問題では定番のものである。漢字に苦手意識を持つ受験生に対して、いかに効率的に学習するか意識させることをねらいとした。	②「果」③「辺」は難問と予測していたが、③がここまで正答率が低くなるとは予想外であった。部首「しんにょう」の意味がつかめなかったことが原因と思われるが、やはり部首の意味を知ることが漢字に強くなる第一歩であろう。
	②	28%	34%		
	③	10%	13%		
	問2 ④	58%	71%		
	⑤	57%	64%		

● 2023年度 中学入試 第2回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	59%	74%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、規則性を探し条件を満たす分数を求める問題、図形(平面・立体)の基本的な処理を問う問題を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。	得点が極端に低いものではなく、よく解答していた。ただ、単位換算や立体図形の問題では他と比べると正答率が下がった。小問を確実に得点することはもちろんのこと、これらの問題への対応力が合格するために必要だと感じられる。
	問2	56%	66%		
	問3	90%	96%		
	問4	72%	84%		
	問5	76%	89%		
	問6	69%	82%		
	問7	64%	82%		
	問8	54%	66%		
2	問1	86%	96%	蛇口と3つの管から水を出し入れする問題。文章だけでなく、グラフを用いて変化の様子を考えることができるかがポイントである。条件を整理しながら変化の様子を調べる必要がある問題である。	問1は基本的な問題であり、得点率も高かった。問2もグラフの情報を正確に読み取り、正しく計算式を組み立てられるかが重要であった。合格のためには確実にとりたい問題である。
	問2	62%	80%		
3	問1	97%	100%	本校でもよく出題される平面図形の問題。平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方が理解できているかがポイントとなる。比の合成と面積比の標準的な問題である。	問1は線分比の基本的な問題であり、得点率は高かった。また、問2では比の合成を利用した4つの比を出題したが、全体的に得点率が高かった。一方で、問3の得点率があまり伸びなかった。基本を押さえつつ、どこまで応用問題に取り組めるかが大切である。
	問2	88%	97%		
	問3	28%	44%		
4	問1	74%	91%	立体を1回転させてできる立体の体積を求める問題。問1は立方体を1回転させる問題、問2は立方体から切り取った立体を1回転させる問題を出題した。難易度は高くなく、標準的な問題である。	問1は全体的に得点率が高く、確実に得点しておきたい。問2は切り取った立体を把握することはもちろんのこと、その立体を回転させたときにできる立体を考えることができるかがポイントであった。
	問2	47%	65%		
5	問1	22%	33%	カードを引き、条件を満たす場合の数を求める問題。B君の数字がある数を2回かけたものという条件である程度絞ることができるが、すべてのパターンを漏れなく数え上げられるかがカギとなる。	問1はB君のカードが36と144であることがわかれば、最大公約数が12となるカードを考えればよい。問2は問1を利用してAを絞り、約数の個数を考えていく問題。この2問は合格のためには確実にとりたい問題である。問3はパターンが複雑であり、正答率を下げってしまった。
	問2	28%	40%		
	問3	7%	11%		

● 2023 年度 中学入試 第 3 回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問 1 a	96%	98%	同じテーマを持つ、二つの文章を読み、統合的に考え、さらにテーマについて深く捉えることができるかを問う。穴埋め、抜き出し問題は文章のキーワードとなるものを見いだせる力、選択問題では文章全体を把握できる力、記述は単なる抜き出しではなく、文章全体をまとめる力を問う。	漢字の書き取りは、概ね良好であるが、文脈の中での意味が把握できていないものは、出来が悪かった。記述のまとめも、文章全体を見渡して書いている者は少なかった。キーワードの選別、抜き出しは概ね出来ていたように感じる。
	b	5%	5%		
	c	74%	88%		
	d	77%	89%		
	問 2	47%	62%		
	問 3	48%	49%		
	問 4	58%	70%		
	問 5	64%	76%		
	問 6	70%	81%		
	問 7	26%	32%		
問 8	38%	49%			
問 9	73%	81%			
2	問 1 a	80%	85%	孔子やその弟子の言行を記録した『論語』は小学生でも聞いたことのある作品であるだろう。その『論語』を題材にした物語である。自分を認めてほしい子貢の心情と、それに対する孔子の考えをしっかりと読み取ってほしかった。	語句の問題は表現が難しいものになると正答率が下がった。普段からたくさんの文章にふれ、語彙力を増やしてほしい。また、終盤の会話文の中から本文の内容を照らし合わせる問題は近年の頻出の形式である。短時間で情報を処理できるよう、普段から訓練をしてほしい。
	b	45%	57%		
	問 2	71%	84%		
	問 3	69%	80%		
	問 4	53%	61%		
	問 5	82%	95%		
	問 6	36%	39%		
	問 7	20%	30%		
3	問 1	58%	63%	比較的わかりやすい言葉で書かれている詩。海が近い、遠いというのが比喩であることをつかみ、それがどういう意味を持つのかを考えてほしかった。詩中の表現から考えると海は力(生命力)であり、それゆえ若さの象徴であることが読み取れる。二度繰り返される「近くにおいて下さい」という表現が主題であることも読み取りたい。	問 1 は主題を問う設問。詩の中で二度繰り返される表現があり、全体からも海の近さをプラスにとらえている点をおさえる。問 2 と問 3 は表現および表現技法の問題で、よくできていた。問 4 は海が生命力の象徴であることをおさえたうえで、願いが自分だけでなく若者にも向けられていることがわかればよい。
	問 2	89%	94%		
	問 3 第四連	88%	93%		
	第六連	85%	92%		
	問 4	53%	61%		
4	問 1 ①	28%	38%	語彙力を問うことをねらいとした。表現の幅を広げるといふ点で、知っておくとよいことばをとりあげた。とはいえ、受験生にとってはなじみの薄いことばであり、難問かと推測した。	①「あからさま」や③「つたない」の得点率が低く、④「いぶかしい」⑤「しどろもどろ」が逆に高かったのは、予想外であった。受験対策がしっかりととられているということだろうか。
	②	39%	54%		
	③	21%	32%		
	④	51%	60%		
	⑤	57%	67%		

● 2023年度 中学入試 第3回・グローバル 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	90%	97%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確認するための小問集合。四則演算、食塩水、年齢算、速さと整数の問題、整数、平面図形と展開図など、基本的な処理を問う問題であった。	基本的な問題を多く出題したため、受験者全体の得点率も高く、合格のためには落とすことのできない問題となった。問2の単位換算の計算があまり正答率が高くなく、差が出る問題であった。また、問5・問6の整数についての問題が合否を分ける問題であった。
	問2	65%	83%		
	問3	91%	97%		
	問4	90%	96%		
	問5	52%	67%		
	問6	67%	86%		
	問7	72%	86%		
	問8	77%	87%		
2	問1	59%	80%	速さについての問題で、面積図を用いる基本から標準的な問題である。小数第3位まで扱う問題であることと、文章から面積図を用いた考え方につなげられるかが問われる問題であった。	問1は基本的な問題としての出題であったが、情報を整理することが難しかった受験生もいた様子であった。また、問2は情報をしっかりと整理し、面積図などを用いて表せなければ、正答にたどり着くことは難しい問題であったため、かなり正答率が低くなった。
	問2	7%	15%		
3	問1	33%	51%	平面図形の問題であるが、本校では、出題頻度の低い、円をモチーフにした問題。円についての知識をしっかりと理解できていないと難しい問題であり、受験生にとっては難易度の高い問題であると言える。	問1から、円の知識を持っていないと難しい問題であるため、予想通り正答率はかなり低くなった。また、問2が正答できなければ、問3は正答にたどり着かないような問題であったため、より正答率が低くなってしまった。問1がしっかりとできたかどうかポイントとなった。
	問2	29%	32%		
	問3	3%	9%		
4	問1	22%	38%	場合の数と整数をモチーフにした融合問題。ルールをしっかりと把握し、一つずつ試行することで、整数の条件が見えてくる問題で、その条件から場合に分けて考えていく問題であり、思考を問う問題でもある。	問1はルールをしっかりと把握できず、1回目・2回目のサイコロの目の出方を入れかえた場合を含まず回答している受験生が多くいたため、正答率がかなり低くなってしまった。また、問2は全通り挙げていくと時間がかかったり、ミスが出たりする可能性が高く、正答率は低くなると想定していたが、想定よりもかなり低くなってしまった。
	問2	0%	1%		
5	問1	82%	92%	立方体と立体の特徴をテーマにした問題。辺の本数や面の数など、立体がどのように作られているかを考える問題と、自分で立体を作り考えることができるかを問う問題であり、問3は難易度の高い問題である。	問1・問2は与えられた立体の辺や面の数を考える問題で、特徴から計算によって求めることもできるが、数え上げることもできるので解きやすい問題であったが、問3は自分で立体を作り出さなければならず、予想通り、受験生にとっては難しい問題となった。
	問2	73%	86%		
	問3	4%	9%		

● 2023年度 中学入試 第3回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評	
		全受験生	合格者			
1	問1	91%	92%	日本国内の自然環境と産業に関する一般的な問題に加えて、地形図の読図に関する問題を組み合わせた。地図や統計などを読み取って考えることを意識して出題した。	地形図の読図については、受験生の多くがしっかり解答できている。日本でみることができるとよい。その他の問題についても高い正答率であるが、統計など一部の問題は正答率が下がる。都道府県順位の他、生産量も意識して考えられるとよい。	
	問2	19%	21%			
	問3	63%	68%			
	問4	74%	81%			
	問5	A	59%			65%
		B	94%			98%
		C	87%			94%
	問6	(1)	40%			44%
		(2)	72%			85%
	問7	A	55%			69%
		B	89%			95%
	問8	(1)	88%			92%
		(2)	ア			44%
イ			88%	91%		
	ウ	70%	81%			
2	問1	80%	93%	今日の「日本と中国の関係性」を受験用語だけでなく、歴史から理解を深めてもらうために日中共同声明を軸に作問した。ただ文章を読むのではなく、書いてある内容が現在勉強している内容とどのようにつながっているのか、またその内容に疑問を持ったのであれば、自分で探求していく時間を取ってほしい。ただ暗記するという勉強からの脱却がねらいである。	基本的な受験用語や内容を答える問題は概ね正答率が高いが、自分でしっかり調べてほしい内容は文字だけではなく、史料等も含めて学習してほしい。今後、「歴史教育」が受験生に求めていく姿勢や在り方をしっかり考えていく必要がある。	
	問2	64%	74%			
	問3	63%	69%			
	問4	(1)	22%			29%
		(2)	35%			42%
	問5	(1)	18%			36%
		(2)	79%			88%
	問6	30%	29%			
	問7	89%	94%			
	問8	54%	69%			
	問9	93%	95%			
	問10	A	70%			83%
		B	9%			15%
C		55%	75%			
D		67%	73%			
3	問1	65%	78%	ここ10年間の年表を元に、憲法、選挙、国際関係などについて基本的な事項を出題した。現在の選挙制度、核兵器禁止条約に関する日本のスタンスやウクライナの場所などを時事問題の一つとして出題した。日頃から新聞やニュースを通じて時事問題に興味・関心を持ってほしい。新しい人権やGDPについては正確な知識を求めたもので発展問題として出題した。	漢字で解答する唯一の設問が「安倍晋三」を答えるものであったが、誤字や解答の仕方を間違える誤答が予想以上に多発していた。しっかり問題文を読み、姓名で答えてほしい。間違いやすいと思われる漢字は正確に覚えることが必要である。公民分野は制度や仕組みが変化することもあるので、常日頃からアンテナを張る必要がある。	
	問2	57%	66%			
	問3	51%	59%			
	問4	39%	52%			
	問5	88%	86%			
	問6	82%	87%			
	問7	93%	98%			
	問8	25%	39%			
	問9	36%	47%			
	問10	73%	87%			
	問11	67%	69%			
	問12	64%	72%			
	問13	84%	90%			

● 2023年度 中学入試 第3回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 あ	93%	95%	前半(問3まで)は様々な脊椎動物、無脊椎動物について、分類、からだの特徴、変態、呼吸に関する知識を問い、後半(問4・問5)はカエルの飲水のしくみを説明文の中から理解し、実験結果を科学的に推測するものとした。	問2(2)の変態を行う動物を列挙する問題は、やや些末な選択肢があったため、難しかった。全般に、考えようとした方向性は正しくても、問題文で示された前後のつながりのなかから(言葉として、あるいはさまざまな条件設定の中で)誤答になったものが多くみられたのが惜しい。片言の手がかりだけをみて早とちりな答えにならないよう注意したい。
	い	79%	86%		
	う	91%	93%		
	問2 (1)	50%	66%		
	(2)	7%	13%		
	問3 (1)	58%	75%		
	(2)	65%	73%		
	問4	63%	66%		
問5	37%	46%			
2	問1	94%	97%	夜空を観察することによって見える太陽系の惑星の特徴や実際の夜空での位置や見え方を理解できているかを問う問題である。また、惑星や地球が1年間にどの様に移動するかをイメージできるかを求めた問題である。	惑星の位置が1か月後にどのように見えるかを問う問題については、あまり良く出来ていなかった。これらを考える上では、地球と惑星の運動を総合的に判断する力が必要である。また、木星の会合周期の問題については、問題文をしっかりと理解することを心がけたい。
	問2	58%	59%		
	問3	46%	47%		
	問4	44%	55%		
	問5	75%	87%		
	問6	58%	69%		
3	問1	83%	94%	料理や掃除などは生活をしていくうえで欠かせないものである。今回、料理にも掃除にも使用される炭酸水素ナトリウムをテーマに身近な化学について考える力をはかることをねらいとした。	おおむね想定通りの結果で、前半部分の問題はよくできていた。ただ、後半の問4は塩素の臭いが腐卵臭でなく刺激臭が正解で、よくプールの消毒液のようなにおいとたとえられることもある。しかし、昨今のコロナの影響もあってプールの授業が減り、塩素をかぐ機会の減った受験生が増えたのも正答率低下の背景としてあるのではと考える。
	問2	76%	81%		
	問3	78%	92%		
	問4	35%	43%		
	問5	35%	49%		
	問6	26%	44%		
4	問1 ①	89%	95%	ドップラー効果に関連する出題。文章中にある条件を読みとり、音源の移動による観測時間の違いについて、図を活用して考えることができるかを問うものである。	音源の移動距離を求めるための読み取りは多くの受験生ができていたが、時間を読み取るところで躓いたようだった。条件の読み取りに、与えられた図を活用できるように心がけてもらいたい。2つの条件から音速が一致することを見だし、解答までたどり着くことはかなり困難であった。
	②	67%	86%		
	③	33%	57%		
	④	29%	55%		
	問2	2%	4%		
	問3	38%	48%		
	問4	8%	12%		

● 2023年度 中学入試 第4回 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	71%	83%	球面思考と平面思考の違いについて述べた文章。筆者の主張をつかむこととそこに至るまでの論理の展開を読みとることをねらいとした。記述に関しては、簡潔に表現する力が必要となる。	問1dが出来ていないのは、「ゲンギ」の意味がわからなかったためと思われる。問4は「喧嘩→火事→演劇」と話しが展開するなかで、「第四人称的」であることの言い換えを発見できたかどうか。問6の記述問題には、的確な解答が多数見られた。
	b	82%	84%		
	c	70%	81%		
	d	14%	15%		
	問2	87%	92%		
	問3 B	93%	98%		
	C	55%	69%		
	問4	43%	56%		
	問5	85%	92%		
	問6	51%	62%		
問7	63%	81%			
2	問1 ア	80%	90%	登場人物ごとの心情を把握できることをねらいとした。登場人物の表情や発言等の動作は気持ちの表れである。その根底にある気持ちを読み取ってもらいたい。	語句の意味問題については正答率が高かった。ねらいとした心情問題も概ね理解しており、物語文をしっかりと勉強してきていることがうかがえた。選択問題が多かったため、解きやすかったとは思いますが、間違えたものについては選択肢のどこが誤りなのかをしっかりと確認してもらいたい。
	イ	72%	79%		
	ウ	56%	68%		
	問2	8%	8%		
	問3	73%	83%		
	問4	66%	70%		
	問5	84%	85%		
	問6	67%	72%		
	問7	32%	40%		
	問8	47%	52%		
問9	48%	60%			
3	問1 1	77%	89%	俳句についての知識や鑑賞力をはかる問題。詩と同様にあまり学習機会のない分野ではあろうが、日本固有の伝統的な定型詩について、あらためて関心を持ってもらうことをねらいとした。	問1は内容的な解釈はもちろん、「切れ字」「比喩」「倒置」などがしっかりと理解出来ていれば正解に至るはず。問3は問1に加えて、各句の季語を見抜くことだが、俳句の季節が陰曆に基づいていることを理解していないと正解できなかった。
	2	60%	64%		
	3	68%	71%		
	問2	38%	48%		
	問3	14%	15%		
4	問1	90%	97%	「いろはかるた」に取り上げられていることばを中心に作問した。ことわざや慣用句は単に暗記するだけでなく、その意味をきちんと理解して使いこなせるようにすることが重要である。	全体的に高い正答率を得る結果となった。こちらが想定した以上に高い数字である。本校の入試傾向をつかんだうえで、それに沿った対策をしていることがうかがえる。
	問2	67%	82%		
	問3	83%	93%		
	問4	53%	68%		
	問5	74%	84%		

● 2023年度 中学入試 第4回 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	89%	96%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、数の性質、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。具体的には問1が計算問題、問2が単位換算、問3～問6が特殊算および数の性質、問7・8が図形問題であった。	大問1の受験生全体の得点率は比較的高く、多くの受験生がここで得点を伸ばした。問6、問8の全受験生の得点率は約60%だが、2問とも平易な問題であるので、しっかりと得点したいところである。
	問2	84%	93%		
	問3	84%	97%		
	問4	61%	88%		
	問5	93%	99%		
	問6	59%	77%		
	問7	83%	99%		
	問8	59%	77%		
2	問1	70%	84%	よく出題される平面図形の問題。平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方などが理解できているかがポイントとなる。	難易度は易しく、完答してほしい大問である。問2の面積比の得点率が低く、面積比の理解が十分でないことがうかがえる。平行線と辺の比の理解ができれば、次は面積比に意識を向けてもらいたい。
	問2	59%	79%		
	問3	73%	91%		
3	問1	98%	100%	数量(歩数)に関する問題であった。この問題を通して、逆比に関する理解があるか、そして問題の状況からその結果を次の問2で活用できるかをみるねらいであった。	問2について、A君がB君に追いついたということは、2人は同じ距離を歩いたということに意識が向かない受験生が多かった。そこに気づけば問1の結果が利用でき、答えは目の前である。
	問2	49%	73%		
4	問1	64%	87%	立体図形の体積に関する問題であった。問1は基本的な体積の求め方を問う問題で、問2は比の扱い方をみるねらいであった。	問1は円錐台の体積を2倍するだけであり易しいが、計算ミスが目立った。問2は考え方や順番を誤ると複雑な計算となるため、効率的で分かりやすい考え方を選択できたかがポイントになった。
	問2	24%	51%		
5	問1	71%	86%	場合の数に関する問題であった。問1では場合の数の基本的な求め方、問2では対称性の利用、問3では条件をみたす例を挙げる問題を出題した。場合の数においては計算および対称性を利用して数えることが大切であり、それをみるねらいであった。	最後の大きな大問で時間があまりなく焦ってしまったのか、問1での計算ミスや問3において問題文を十分に読めておらず、問題の条件とは異なるものを解答している受験生が多かった。時間配分をよく考え、落ち着いて問題文を読むように心掛けてほしい。
	問2	6%	13%		
	問3	18%	43%		

● 2023年度 中学入試 第4回 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	81%	87%	地理分野の観点から日本の概要を出題した。どの問題も標準レベルである。基本的な用語、雨温図などのデータの読み取り、話題性の高い時事問題を確認した。	おおむね得点率が高かった。合否を分けた要因は、語句を単語としてのみとらえるのではなく、意味を理解して、使うことができるか、またその語句を正確に漢字で答えられるかであった。日頃からの基礎基本についての、丁寧な学習が大切である。
	問2 1	94%	100%		
	2	54%	71%		
	3	80%	92%		
	4	76%	89%		
	問3	82%	95%		
	問4	37%	39%		
	問5 (1)	38%	67%		
	(2)	89%	95%		
	問6 (1)	87%	93%		
	(2)	69%	86%		
	問7 (1)	76%	87%		
	(2)	81%	80%		
	問8	44%	57%		
問9 (1)	91%	96%			
(2)	87%	91%			
2	問1	92%	96%	人間が「神様」として祀られていることに疑問を抱いた小学生が、現在祀られている神様をカードにまとめるという設定でリード文を作成した。選択肢を複雑化し、既習事項を正確に理解しているか確認する問題を多く出題した。	全体的に得点を稼いでほしいポイントでしっかりと得点してくれた。問5(1)は正答率が低いが、米騒動が大正時代の出来事であることに気づけたかどうかで正誤が分かれた。漢字を書く問題を3問設定したが、漢字の誤りなどが散見された。特に問7(1)で顕著であった。
	問2 (1)	59%	73%		
	(2)	80%	90%		
	(3)	51%	70%		
	問3 (1)	72%	85%		
	(2)	95%	99%		
	問4 (1)	50%	57%		
	(2)	89%	92%		
	(3)	92%	98%		
	問5 (1)	20%	32%		
	(2) 名称	95%	99%		
	(2) 理由	83%	88%		
	(3)	53%	68%		
	問6 (1)	75%	87%		
問7 (1)	20%	29%			
(2)	40%	48%			
3	問1 1	66%	78%	最近の新聞記事から、選挙制度や税制、エネルギー問題、憲法改正、国際政治や経済の時事問題などについて広く問う問題。基本的な知識の習得とともに、意味の理解やその説明など、もう一步踏み込んだ学習ができているかどうかを問う問題も出題した。	特に難解な問題は出題していないので、公民分野の基礎的な知識・理解がしっかりとできているか否かが合否の分かれ目となった。選挙制度や憲法改正に関する問題は毎年のように出題されているので、確実に理解しておきたいところ。また、政治や経済についての時事的な問題も、普段から新聞やニュースなどに興味関心をもっていれば十分に答えられる内容。
	2	56%	67%		
	問2	51%	66%		
	問3	32%	51%		
	問4	96%	98%		
	問5	32%	37%		
	問6	68%	76%		
	問7	94%	99%		
	問8 (1)	52%	67%		
	(2)	20%	28%		
	問9	12%	17%		
	問10 X	90%	93%		
Y	59%	75%			
Z	87%	95%			

● 2023年度 中学入試 第4回 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	75%	87%	実験で与えられた条件設定とその結果との関連性を読み取り、別の条件で予想される結果を推定する問題を出题した。特に解答が一つではなく複数の可能性がある問題は、解答を選ぶ明確な根拠に気づくことが求められる。	生物の分野は知識問題が多くなる傾向があるため、暗記が中心の学習になりがちであるが、その知識を正しく用い、未知の事象に当てはめて考える(想像する)ことができる力を養っていくことが大切である。
	問2	73%	83%		
	問3	26%	42%		
	問4	77%	87%		
	問5 X	57%	72%		
	Y	16%	24%		
	問6	38%	58%		
2	問1	88%	91%	気象の分野から、雲のできる仕組みについてある兄弟の会話から読み取る形式で出题した。典型的な雲の形状、性質といった観察的な理解から、上昇気流、下降気流、結晶核の微粒子の存在といった理論的な内容へと徐々に詳細な理解へと話が進み、単に表層的な知識をなぞるだけでなく、その背後にある科学的な背景を理解する姿勢を問うた。	概ね予想通りの結果となったが、問2の漢字の書き取りの誤りが多かった。理科に限らず、典型的な用語は正確に記述できることが望ましい。また問4の正答率がかなり低く、簡単なグラフの読み取りの練習が必要であると感じた。あからさまな誤答の選択肢を選んだ受験者がかなり多く、グラフから実際に起こっている現象をイメージする能力が求められる。
	問2	46%	70%		
	問3	92%	99%		
	問4	35%	40%		
	問5	40%	61%		
	問6	32%	30%		
3	問1	41%	59%	気体の基本知識と、気体の発生や物質の生成に関する内容を出题した。与えられた情報をもとに、計算を進めていく力や、情報を正しく変換する力、複数の観点から計算を進め、正しく解答を導く力を問う問題である。	問1、問2は気体の知識にまつわる問題で、電気分解による気体の発生の選択肢が正答率を下げた要因と感じる。 問3、問4は反応前後で、物質の合計の重さに変化がないことを理解できていれば、得点を期待できる部分であったが、体積と重さの変換ミスによる失点が多かった。 問5、問6は問3、問4で求めた反応の比率を使って解く問題である。反応の過不足が起こるため、そこに気づけるか否か、また気づいてもどこの比率を使って解くかなど情報を整理し、正しく解答を導く力が必要であった。
	問2	43%	59%		
	問3	53%	76%		
	問4	28%	60%		
	問5	9%	25%		
	問6 (1)	15%	33%		
	(2)	3%	9%		
4	問1	53%	74%	てこの原理に関する問題であるが、まず正確に式を立てられるか、さらに計算力を持っているかを調べることをねらいとした。また、重さのある棒にすることで、応用する力を持っているかどうかも作問の意図とした。	想定に反して、問1の基本問題から苦戦を強いられた受験生が多かった。てこの原理について、正確な理解と計算力を身につけてほしい。また、問3、問4では棒が斜めの状態になっているが、水平の場合と同じように考えてよい。これに気がつかないと計算がかなり大変であったと推察する。
	問2	41%	67%		
	問3	20%	36%		
	問4	9%	22%		
	問5	21%	34%		
	問6	8%	17%		

● 2023年度 中学入試 帰国生 AB方式 国語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1 a	91%	92%	芸術とは何かということについて、マルセル・デュシャンの「泉」という作品をとりあげ、これまでの芸術と違う点を論理的に述べている。文章自体は容易に読むことができるので、いかに速く正確に読み取れるかを試す問題と言える。	問1の漢字の書き取りは訓読みで合格者と不合格者の差が大きかった。問2の抜き出し問題についても同様のことが言えるが、これは読む速さにも関わりがあると考えられる。問5は論説文に頻出する語の意味を理解できているかどうかの違いと言える。全体として帰国生の読解力は向上しているようである。
	b	75%	94%		
	c	72%	78%		
	d	86%	92%		
	問2	59%	84%		
	問3	89%	90%		
	問4	69%	89%		
	問5	58%	82%		
	問6 X	74%	88%		
	Y	52%	72%		
問7	76%	90%			
2	問1	41%	70%	登場人物・沼田の少年時代の別れの経験を、2つのエピソードを重ねる形で回想した場面。それぞれのエピソードの共通点を読み取ることで、本文全体を構造としてとらえることができるかがポイント。そのうえで沼田少年の人生にとって別れがどのような意味を持つのかという主題を、「仕方ない」「諦め」など、繰り返されるキーワードを通して読み取ることができたかを問うた。	問1、問3、問8のような本文全体を大きく読む視点の設問で、正答率の差がつくという特徴が見られた。本文の前半と後半の末尾に同じような表現が見られることに気づくと問1は容易。問7は「哀しみの理解者」「話の聞き役」「同伴者」に相当しないものを選ぶ。問8は父と母両方に気づかう沼田少年の心情をつかむ。問9の記述は左欄の「出題のねらい」参照。
	問2 A	58%	74%		
	B	67%	76%		
	問3	43%	62%		
	問4	80%	86%		
	問5	91%	96%		
	問6	64%	74%		
	問7	49%	58%		
	問8	42%	56%		
	問9 (1)	46%	73%		
(2)	23%	33%			
3	問1	51%	56%	春の訪れによるこびを感じている詩である。表現技法に関する出題は定番である。比喩的にしかも短く簡潔な言葉によって表現された内容を、一語一語に注意しながら正確に解釈できるかが試される。	詩についての苦手意識がうかがえる結果である。問3は観念的に誤答を選んでしまったようだが、文章を読むということは、あくまでもその文章の中から読み取れることをつかむということである。独善的に考えてしまうことのないよう注意してほしい。
	問2	74%	86%		
	問3	35%	34%		
	問4	75%	76%		
	問5	51%	66%		
4	問1 1	63%	78%	漢数字を含むことばについて出題した。語彙力を高めるためには、単に読みや意味を覚えるだけでなく、実際に使うことができるかがポイントになる。	もう少し得点率は低くなると予想していた。帰国生は漢字が苦手という先入観があったが、この結果を見る限り、日ごろの学習の成果がうかがえる。
	2	85%	92%		
	3	37%	50%		
	4	53%	66%		
	問2	42%	48%		

● 2023年度 中学入試 帰国生 AB方式 算数 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	95%	94%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、規則、図形(平面・立体)の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・問2は計算問題、問3～問6は特殊算を幅広い分野から、問7・問8は図形の問題を出題した。	昨年度に比べ、全体的に出来が良かった。基本的な力を見る問題が多かったが、昨年と比べ、受験算数特有の線分図や面積図を用いた問題の出来は悪くなかったが、抽象的な問題(数列や推測)や「以上」「できるだけ多く」といった問題は思ったほど良くはなかったようである。
	問2	84%	90%		
	問3	55%	68%		
	問4	71%	81%		
	問5	45%	61%		
	問6	46%	64%		
	問7	69%	81%		
	問8	84%	90%		
2	問1	81%	94%	3つの管から水を出し入れする問題だが、基本的な仕事算の問題である。問2は特殊算を知らなくても解けるような問題構成にした。	昨年出題した問題の類題のような問題。基本的な仕事算をはじめとした特殊算ができれば、受験算数においては基本的な問題であり、取り組みやすい問題であったため、出来はかなり良かった。
	問2	84%	98%		
3	問1	82%	92%	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題であり、三角形を題材にした。問1・問2とも面積の割合を求める問題である。1つの図形を基準にして、高さの比等を利用して、もとの三角形の何倍かという、図形に関する性質の定着度合も受験生に求めた。	本校がよくテーマとしている平行四辺形を基にした線分比と異なったが、平行四辺形で練習をしている受験生は問題なかったようであり、全体的によくできていた。問2のような具体的な面積の数値を求める問題にすると、手をつけやすくなるように見受けられた。
	問2	79%	92%		
4	問1	94%	99%	4枚の円柱の積み重ね方の場合の数を求める問題。3問とも独立した問題であり、実際に調べて場合の数を的確に処理できるかどうかを問う問題であった。	問題文のルールを理解は難しいが、効率よく処理できているかどうかで正誤が分かれた。場合の数はそれほど多くないので、全部の場合をあげて調べていけばそう難しくはないはずだが、問3の問題で、文章の意味を理解していない受験生も見受けられた。
	問2	60%	80%		
	問3	32%	53%		
5	問1	55%	76%	本校の入試問題でよく取り上げられる旅人算の問題であったが、電車の警笛というあまりない題材からの出題である。受験生の旅人算でよく見受けられる人や車、自転車などと同じ考え方で処理できるかを問う問題である。	問題の状況をしっかり考えて、電車の速さと警笛の音の速さの関係を利用できたかがポイントであったが、問2以降は難易度が高く、全体的に出来は良くなかった。文章から図を書いて必要な情報を取り出せた受験生は正解までたどり着いたようである。
	問2	9%	15%		
	問3	8%	13%		

● 2023年度 中学入試 帰国生 A方式 英語 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	Q1	25%	44%	英検準1級・英検1級レベルの語彙や熟語が理解できること。派生語が分かり、綴れるか、基本動詞の綴りを問うという主旨のねらいで出題をした。基本的には例年通りの形式で出題をした。	概ね良好であると言えるが、英検準1級レベルのものは理解・選択ができるが、1級レベルのものとなるとまだまだ学習が必要と思われる。一方で単語の綴りは日常から気を付ける必要がある。
	Q2	34%	44%		
	Q3	42%	61%		
	Q4	53%	71%		
	Q5	92%	98%		
	Q6	62%	78%		
	Q7	70%	80%		
	Q8	61%	80%		
	Q9	65%	78%		
	Q10	6%	15%		
2	(1)	68%	93%	2者によるやり取りが続く長めの英会話の文を読み、その内容を正しく理解した上で、選択肢から空所を埋める作業により全体を要約させる問題である。受験生の英語読解力と論理性を伴った思考ができるかを問うている。	全受験生と合格者の得点率を見ると、この問題が合否を分けたといえる。選択式問題なので、しっかりと内容が読め、ある程度ロジカルな思考ができる帰国児童にとっては容易な問題が中心であり、合否の差は主に英語理解力の差と考えられる。(9)は英会話本体の読解が表面的な場合、正解を得られず、やや難しかったかも知れない。
	(2)	51%	66%		
	(3)	49%	83%		
	(4)	42%	59%		
	(5)	54%	76%		
	(6)	35%	61%		
	(7)	18%	34%		
	(8)	54%	80%		
	(9)	27%	32%		
	(10)	31%	61%		
	(11)	59%	80%		
	(12)	24%	37%		
3	Q1	51%	78%	文章の前後に注意をしながら文章を正しく整序できるかを出題した。形式は概ね例年通りであった。多彩な文法事項や熟語が出題されたが今年も大学入試の基本的なレベルのもが多かった。	大学入試レベルで必要とされる基本的な文法事項は概ね良好であった。文法事項は英文の骨格をなし得るものであると言える。日常から気を付けて学習を進めていく必要がある。
	Q2	20%	43%		
	Q3	60%	80%		
	Q4	61%	75%		
	Q5	45%	71%		
4	1 ①	72%	85%	アメリカのラスベガスにおいて、発電のための様々な取り組みを紹介するエネルギー問題に関する文章。論理の流れを理解するとともに、日頃から環境問題を含む時事問題への関心が求められる。	文の流れを決定づける表現、いわゆるディスコースマーカーを選択する問題と本文の内容と一致するものを選択する問題。なじみやすい内容であったため文章理解の方は比較的高得点となった。一方ディスコースマーカーの問題は「主張→具体例」「理由→結論」などの因果関係をつかむことに、やや苦戦していたようであった。
	②	62%	90%		
	2 ①	51%	73%		
	②	55%	83%		
	3 ①	45%	44%		
	②	72%	88%		
	4 ①	60%	85%		
	②	34%	59%		
5	Q1	81%	91%	すべて記述式の長文問題である。全文和訳や指示された内容を答える問題を通じ、英語の読解力に加え、日本語の記述力も問うた。長文中の語彙レベルはあえて低く設定しているものの、指示語が何を指しているかや、話の流れをしっかりと理解し日本語で説明できるかが正答の鍵となる問題である。	本文内の使用語句は難しいものはなかったが、長文の分量が若干昨年よりも増え、設問も部分的に答えさせるものから、1文すべてを書くものに変ったということから、難易度がやや上がったといえる。知らない語句があったとしても十分に前後関係で読み取ることができたはずだ。しかし、Q2・Q3で正答率が低く出ていることから、本文のアウトラインは理解できるが、細かい点について丁寧に読む習慣が身につけていないと考えられる。ポイントとなる部分にアンダーラインを引いて丁寧に解答する癖をつけてほしい。
	Q2	8%	14%		
	Q3	9%	15%		
	Q4	33%	46%		

● 2023年度 中学入試 帰国生B方式 社会 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	77%	88%	地理分野と歴史分野の基本的な知識を中心に出題した。歴史分野はその時代に適する語句、人物、出来事の内容を理解していることを確認するために正誤文で構成するようにした。	問2の得点率が5割を切ったのは予想外。奈良時代の内容を聞いているので、文章そのものの内容は合っている時代が違えば誤文となるので注意が必要。問7(2)は難しいと思うが、4択にして盆地や平野を一つだけ聞いた場合は正答率はあがったはず。このあたりを落としたとしても他でしっかりと正解しておきたい。
	問2	42%	41%		
	問3	49%	51%		
	問4	92%	95%		
	問5 (1)	89%	97%		
	(2)	37%	51%		
	(3)	92%	98%		
	問6 (1)	74%	81%		
	(2)	65%	74%		
	問7 (1)	92%	99%		
	(2)	36%	49%		
	問8	66%	78%		
問9	85%	94%			
2	問1	61%	77%	近現代史と公民分野の基本事項の確認に近い問題を中心に出題した。過去問を解いていれば似たような小問にあたったはずである。	正答率の低い問10(1)は、受験生視点では現代史。大人の視点では時事問題のように感じられる。自由民主党大勝の2012年衆議院議員選挙は民主党野田佳彦内閣でおこなわれた。その後、安倍晋三内閣が発足することになる。他の設問の得点率が全体的に高いため、取りこぼしのないようにしておきたい。
	問2	82%	90%		
	問3	55%	69%		
	問4 (1)	81%	92%		
	(2)	72%	88%		
	問5	96%	98%		
	問6	77%	85%		
	問7	97%	99%		
	問8	63%	70%		
	問9	53%	62%		
	問10 (1)	16%	14%		
	(2)	54%	65%		

● 2023年度 中学入試 帰国生 B方式 理科 設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	63%	73%	前半でさまざまな植物に関する知識(分類・単性花)を問い、後半は概日周期があるなかで昼夜の長さによって開花が誘導される性質を資料から読み取って科学的に推論する問題を出題した。	得点状況は大変良い。とりわけ、推論の問題(問3～問6)は、あえて資料を一目瞭然にしなかったなかで、理解度は十分だった。むしろ、さまざまな生物を取り扱う知識問題(問1・問2)で、得点に差が付いた。これは例年みられる傾向でもある。私どもはマニアックな知識を求めてはいない。身近な生物に対する理解を、日頃から地道に広げていてもらいたい。
	問2	29%	43%		
	問3	92%	97%		
	問4	81%	86%		
	問5	89%	94%		
	問6	57%	65%		
2	問1 日食	65%	70%	前半は太陽と地球および月の位置によって観察できる現象について問い、後半は月の自転周期と公転周期をもとに月面上から地球や太陽を観察したときの地球と太陽の位置や時間による動きを考察する問題を出題した。	全体として良くできていた。日食と月食の太陽と地球、月の位置については、学習していたことがうかがえた。また、月面上からの地球の見え方や太陽の動きについては、位置関係をイメージする力が必要であったが、比較的良くできていた。
	月食	62%	64%		
	問2	58%	74%		
	問3	78%	93%		
	問4	77%	83%		
	問5	45%	62%		
問6	33%	44%			
3	問1	75%	90%	前半は、様々な水溶液の性質、またその水溶液の反応から発生する気体の性質を問う問題。後半は、酸とアルカリによる中和反応を用いた計算ができるかどうか確認する問題であった。	全体として正答率が高く、非常によくできていた。問1や問2など比較的数の多い、分類問題や、問5、問6の表を読み取り解答する問題にも的確に対応しており、情報処理を正確に行い解答を導く力があつたように感じる。今後も、基本的な知識を身につけ、かつ情報を読み取り、活用する力をつけてほしい。
	問2	65%	78%		
	問3	77%	81%		
	問4	86%	92%		
	問5	92%	99%		
	問6	80%	91%		
4	問1	37%	48%	一般に金属は電流が流れるが、物質によって流れやすさが異なる。問1ではその違いをきいた。問2以降は回路の接続の仕方によって、電球の明るさや電球に流れる電流の大きさがどうなるのか、最後に乾電池を長持ちさせるにはどうすればいいかをきいた。	問1は正答率が低くなることを想定していたが、合格者の得点率は半分近かった。知識問題もしっかり学習していることがわかる。問2以降も得点率が高く、予想よりもできていた。電気分野を苦手とする受験生が多い中、本校受験生はかなり勉強していることがうかがえる。
	問2	87%	95%		
	問3	68%	83%		
	問4 豆電球3	54%	72%		
	豆電球4	68%	86%		
問5	68%	83%			

● 2023年度 中学入試 グローバル方式 英語 設問別得点率 ※グローバル方式の算数の分析は第3回入試と合わせて掲載(P.28)

大問	小問	得点率		出題のねらい	講評
		全受験生	合格者		
1	問1	62%	90%	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、しっかりとした不規則変化動詞の知識も当然必要とされる。	基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。ただ、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。特に、不規則動詞の変化については、普段から特に意識して学習する必要があるだろう。
	問2	48%	76%		
	問3	88%	100%		
	問4	68%	86%		
	問5	34%	48%		
	問6	80%	90%		
	問7	88%	95%		
	問8	14%	24%		
	問9	86%	100%		
	問10	92%	100%		
2	問1	92%	95%	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも5語を並べ替えた上で、2番目と4番目の語句を解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準2級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。昨年までの問題形式から若干解きにくくなったのにもかかわらず、群動詞、熟語などの知識も定着しているようであり、特に合格者の正答率は、ほとんどの設問において極めて高い。合格者に対しては、今後の活躍が大いに期待される。
	問2	92%	95%		
	問3	82%	100%		
	問4	98%	100%		
	問5	78%	86%		
	問6	74%	86%		
	問7	98%	100%		
	問8	84%	95%		
	問9	68%	86%		
	問10	92%	95%		
3	問1	86%	95%	メッセージ形式の長文問題である。それぞれ内容を問う問題である。筆者が発信する情報を時系列順に正確に思考できるかなどを問うた。設問に対しては、時間の推移と出来事を掌握する必要がある。回答は番号で答えさせる形式で上記内容が分かっているかどうか回答へのカギとなっている。該当しないものに関しては平易な内容でまとめた。	正答率は例年通り比較的高い結果となった。選択形式の回答以外の選択肢も難解なものではなかったことが関わっている。問2に関しては「実際に行う行為が何なのか」をきちんと理解する必要がある。英検準2級とほぼ同等レベルの出題となったが、早く読む能力とともに深い内容を洞察する力も必須である。
	問2	16%	29%		
	問3	94%	95%		
4	問1	96%	100%	論説文を読むことで、いかに正確に読み進められるかを問う問題とした。正確に読んでいるかを問うために、カギとなる語を空欄とし、前後の内容を正確に読めれば、自ずとその語を選択できるという形式とした。	各問の難易度はさほど変わらないにもかかわらず、後半の問題になるにつれ、正答率が落ちてきている。これは、読み進めていくうちに話の筋が追えなくなっているからで、その原因は単語力にあるのは間違いではない。準2級レベルの単語集をしっかりと勉強することが望まれる。
	問2	86%	95%		
	問3	70%	86%		
	問4	64%	71%		
	問5	68%	86%		
	問6	60%	76%		
	問7	56%	62%		
5	問1	62%	72%	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認する問題。和訳を出題しているのは、内容を理解しながら適切に日本語に訳せるかを問うためである。和訳は、長文全体の流れの中で一文を的確に理解しているか、また文法を理解して和訳しているか、にポイントを置いた。内容理解問題では、段落毎にきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるかに主眼を置いている。	英検準2級レベルの問題である。内容的に小学生にも馴染みのあるものであったと思われ、得点率の高い問題も多く、十分な実力があると判断することができる。和訳の採点は内容理解ができているかを中心に考えて行った。受験生の解答から、訳す際にやや難渋した様子のも、必要のないところを訳すなどのものも散見されたが、英文の主張や話の流れを正確に把握している様子が感じられた。
	問2 (1)	98%	100%		
	(2)	100%	100%		
	(3)	98%	100%		
	(4)	98%	100%		